

高次脳機能障害セミナー 就労支援編

平成30年1月20日（土）の日程で、「高次脳機能障害セミナー・就労支援編」が開催されました。（写真1）今年度は、県央地域で医療・福祉・教育に関わる支援機関の方々を対象に神奈川工科大学厚木市子ども科学館サイエンスホールで開催しました。

今回のセミナーでは、クラブハウスすてっぷなな所長で作業療法士の野々垣睦美氏にご登壇をお願いして、「高次脳機能障害の地域支援と社会リハ」というテーマで講演をして頂きました。野々垣

所長は平成16年から横浜の地で、高次脳機能障がいのある方の地域生活や就労の支援に精力的に取り組まれています。地域で暮らし働く高次脳機能障がいのある方を長期的に支援されてきたご経験から、支援ネットワークで高次脳機能障がいを持つ方やそのご家族を支える重要性についてお話頂きました。今回のセミナーでは、地域で働く福祉施設に所属する支援者の方々が多く、野々垣所長の講義を熱心に聞き入っておられる様子がとても印象的でした。

セミナー後半では、グループワークと就労支援機関の紹介が行われました。グループワークでは、参加者7～8名が1グループとなり事例検討を行いました。就労支援に向けたアセスメントとプランニングの検討を実施しましたが、参加者の職種が多様だったこともあり、「自分では気がつかない他職種の支援の視点を知ることができて良かった」との感想が多く聞かれました。

高次脳機能障がいをもつ方の支援は医療機関から就労に至るまで、シームレスな連携が重要となります。地域で支援者同士の顔が見える連携が取れていることは、シームレスな連携を実現する上で大切なポイントです。今後も地域の支援ネットワークが深化する一助となる有益なセミナーを企画・開催したいと思います。（小林 國明）

今回の協力機関と講師は次の方々でした。

クラブハウスすてっぷなな 所長 野々垣睦美氏

障害者職業センター 主幹障害者職業カウンセラー 吉川 真弓氏

県央地域就労援助センター ぼむ 安達 祐二氏

神奈川リハビリテーション病院	医療福祉総合相談室	佐藤 健太	永井 喜子
	職能科	松元 健	今野 政美
		植西 佑香里	小林 國明



写真1 セミナーの様子

模擬職場（名刺グループ）の新規製作物



写真 2 手作りパスケース・カレンダー

職能科では職業準備訓練のひとつとして「模擬職場」というグループ訓練を行っています。模擬職場は実務系の作業を行う「製作グループ」と、事務系の作業を中心に行う「名刺グループ」の大きく2つに分かれており、新規就労及び職場復帰を目標とされている利用者さんを対象に運営しています。

「名刺グループ」では、PC 等技能向上や障害の自己理解、職場における社会的スキルの認識等へ繋げることを目的に、当センターの職員が使用する名刺製作を訓練教材として作業を行っています。名刺を作成する製作チーム、接客を中心に行う営業チーム、名刺データ管理や、物品・勤怠等の管理等様々な作業を行う総務庶務チームの3つの部門に分かれて作業を実施しています。

チームで協力して、その人の顔となる名刺製作を行う一方で、最近はカレンダーやパスケースの作成など新しいものの製作や販促に取り組んでいます。（写真2）製作物によっては、注文受付方法や印刷手順が変わり、今までと違う作業を行うことになるため「いつもと違う作業だと焦ってしまう。」「臨機応変に対応できないのが分かった。」等、作業される利用者さんからはご自身の苦手な部分に気づく言葉が聞かれています。このような様々な作業が、就労に向けて自身の障害の影響に気づき、対応方法を検討する機会になっています。今後も利用者さんの就労に向けて、気づきや代償手段の検討につながるような作業課題の提供を研究していきたいと思います。

（植西 佑香里）

平成 29 年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2017年4月～2018年1月の累計	17名

就職・復職者の人数

2017年4月 2018年1月の	新規就労	10名
	復職	43名

環境の構造化

能力開発部門では、高次脳機能障がいがある方の環境に配慮して支援を行います。「見当識（日時や場所）」、「記憶」、「脱抑制（感情コントロール）」、「注意」、「易疲労」など様々な症状があり、入院間もない時期には不安を感じ混乱されている方もおられます。支援の際、ご本人にとって分かりやすい環境を整える「環境の構造化」を図り安定した入院生活を送る中で、スモールステップで統制された課題に集中して取り組んでいただき、障がいへの気づき、理解、対処法や代償手段の検討と活用を進めていきます。

右の写真は、静かで落ち着ける環境の構造化を図ったもので、壁で仕切られており、刺激を少なくしています。入院時の症状はほとんどの場合、経過とともに落ち着き、作業に集中する、意識がはっきりしてくる様に変化していきます。その時々々の症状や様子をとりえ、訓練内容を検討し、退院後の社会参加や希望に沿った訓練へステップアップしていただける様な支援を心がけています。

写真 3 新作業室



（進藤 育美）